

## 入 選

### 思い出の場所

開智中学校 三年 三宅 葉月

私は去年の夏休みに母の実家へ帰省した。

帰省のたびによく行くのが、近くにあるニジマス釣り場だ。ここは、自然の川の中で育てているニジマスを釣る施設だ。

私は今回もニジマス釣りを楽しみにしていて、早速、母と祖母の三人で釣りに出かけた。

ニジマス釣りをする場所は、山の中にあり、川の周辺にも木が生い茂っているの、町の中より気温が低く、真夏でも涼しい。

釣竿を借り、早速、釣れそうな場所をさがした。ニジマスは、川の中でも流れが速く、白い泡が出ている付近にいる。

今日は開場してすぐの時間に来たので、釣り人がほとんどいない。なので、ニジマスの食いつきがいい感じだった。

ニジマスを釣りあげる時、ニジマスが逃げようと引く張る。引き上げる力とタイミングが必要で、結構大変だったが、十五匹も釣れた。今日は運もよく、とても楽しく釣りができた。

ニジマス釣りの合間に川で遊んだりもした。夏なのに川の水がとても冷たくひんやりとしていて、私は驚いた。

ここは気温だけでなく、川の水まで冷たい。そして、川の水がとても澄んでいた。水が太陽の光に当たるとキラキラと輝いていて、きれいだなと思った。

母の実家は鹿児島県の大隈半島の端っこにある。結構な田舎だ。自然の多い所だから、こんなに川がきれいなのかと、その時の私は思った。

環境によって、水質が変わるのはなぜだろうと思ひ、水について調べてみた。

地球の水は約十三億五千万立方キロメートルあり、海水は約九十七パーセント、淡水は約三パーセント。地球の水の中でも人間が利用できる水は約〇・

〇一パーセントらしい。

雨が森林や山に降り、地面の土や落ち葉、コケなどによりろ過されて、地下水や湧き水となり川に流れていくようだ。自然の多い場所はろ過機能がよく、あの川のようなキラキラと輝く水になるのだろう。

自然の少ない都会は、自然のろ過機能の代わりに人工のろ過機能である浄水場が活躍している。

世界では安全な飲み水を得られない人が二十二億人いると報告されている。汚染された水や水が出にくい地域を改善するには多大な労力や時間、費用が必要になるからだ。

水の汚染について調べてみた。水質汚染とは、河川や湖、海や地下水などの水質が悪化することだ。工場や事業所から出る排水や、日常生活で使われた汚れた水、農業や肥料、地球温暖化などによって水質が汚染されることが原因だ。水質汚染は環境だけでなく、社会全体に影響を及ぼす問題だ。

水質汚染の対策例として、日本では、全国海の再生プロジェクトというのがあり、関係省庁及び各地方公共団体等が湾や海域における環境改善を図ろうと対策をしている。

ほかに、下水道の整備、公共用水域の水質改善、工場・事業場等から公共用水域への排水に対しても、全国一律の排水基準を定めるなど、国もたくさんの方策をしている。

私達個人でもできる対策はある。

まずは、生活排水の量を減らす。そのために、シャンプーや洗濯洗剤などは適量を守る。洗剤類は生分解性の高い石けんや無リン洗剤を使用する。食事の皿の油は、不要な紙で一度拭き取る。河川や海等にゴミを捨てない。

水質汚染対策などに取り組んでいる企業の商品やサービスを積極的に利用するなどひとつの対策になると思う。

今後は、またあの場所でニジマス釣りができるように、自分で出来る対策を少しずつ取り組み、自然や綺麗な水がいつまでも維持できることを願う。